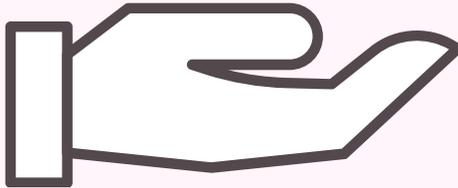


2022年度
西南学院大学



ボランティア ガイドブック



西南学院大学ボランティアセンター



西南学院 建学の精神

“Seinan, Be True to Christ”
(西南よ、キリストに忠実なれ)
創立者 C.K.ドージャー



2022年度 学院聖句

どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。
何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、
求めているものを神に打ち明けなさい。
フィリピの信徒への手紙 4章6節 (新共同訳)

目 次

はじめに

ボランティアセンター長挨拶	2
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	3
ボランティアって、なんだろう？	4
ボランティア活動の心構え	5
ボランティア活動の探し方	6
ボランティア活動保険について、社会福祉協議会(社協)のご案内	8

主なボランティア活動の紹介

①災害ボランティア	9
②国際協力ボランティア	14
③教育ボランティア	18
④福祉ボランティア	20
⑤環境ボランティア	23
学外ボランティア	25
学内ボランティア	26
参加者からの一言メッセージ	28

学生グループ活動（サークル紹介）

(1) 学生スタッフ OPEN	30
(2) ワークキャンプ部	32
(3) 西南 FIWC 九州	33
(4) Think&Act	33
(5) SIEC（西南国際教育協力隊）	34
(6) のびっこの会	34
(7) Pao	35
(8) 手話サークル とびうめ	35
(9) 学生 YM(W)CA	36
印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)／活動室の利用	36
ボランティア活動記録(メモ)	37

はじめに

～ボランティアセンター長挨拶～



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学で皆さんと出会えたことに感謝し、皆さんお一人おひとりの学生生活が、いろいろな人との出会いや、さまざまな経験を通して、有意義で実りある豊かなものになりますよう、心からお祈りしています。

本学の建学の精神は、「西南よ、キリストに忠実なれ」です。また、本学の教育方針の一つに、「奉仕の精神をもって社会に貢献する人を育てる」があります。私たち教職員は、学生の皆さんを、他人の立場に立ってその人にやさしく寄り添える人、また、そのような気持ちをもって社会に貢献できる人に育て、社会に送り出したいと考えています。本学においてボランティア活動は、それを実現するための一つの有力な取組みとして位置づけられ、学生の皆さんの活動を支援・推進する部署として、キリスト教活動支援課の中にボランティアセンターがおかれています。

ボランティア活動は、力を必要としている人に、少し力に余裕のある人が、その力を貸すという行為です。活動してみると、「力を貸すことで相手が喜んでくれた」「喜んでくれたことに喜びを感じた」「もっと喜んでもらうためにもっと力をつけたいと思った」といった体験を得られるでしょう。最初の動機は「困っている人を助けたい」「困っている人の役に立ちたい」が多いかもしれません。しかし、活動の成果は、困っている人が助けられることだけにとどまりません。活動した人自身にも、「自分を変えることができた」「新しい視点を持つことができた」「当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことに気づいた」などなど、大きな学び、成長をもたらしてくれます。

皆さんは、教室で専門的知識・能力を身に付けます。しかし、これをどう使えば社会に役立つかを学ぶ場面は手薄です。学んだ知識・能力をどう使えば世の中の人に喜んでもらえるか、喜んでもらうためには何をどう学んだらよいか、ボランティア活動の経験が、大学で学ぶ意義を改めて見つめ直す契機にもなってくれればと願わずにはいられません。

本学においては、多くの学生たちが、被災地支援・海外ボランティア・学生サポーターといったチャンネルを通し、子育て・教育・福祉・環境・国際交流など、幅広い分野で活動を展開しています。そこには、同じ年代だけでなく、乳児から高齢者まで多くの人たちとの出会いや、個人だけでなく地域・行政・企業などとの交流が待っていて、参加者の視野は格段に広げられることでしょう。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。もっとも、無理は禁物です。自分に合う活動を見つけてください。そうすることで、自分自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面にも出会えるでしょう。ボランティアセンターは、いつも皆さんを応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

本学のボランティアセンターは、ボランティア活動を「西南よ、キリストに忠実なれ」という建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員によるボランティア活動を支援・促進しています。ボランティアセンター事務室には、職員が常駐していますので、ボランティアをすることが初めての方や迷っている方など、どなたでも気軽にボラセンへご相談ください。

【場 所】 ボランティアセンター事務室（1号館2階エレベーター横）

【連絡先】 TEL：092-823-3662 E-mail：swvoc@seinan-gu.ac.jp

【開室日】 通常期間 月～金 8：45～17：20

（長期休暇中や行事などで閉室する場合があります）



【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、年末年始、その他大学が特に定める日

【サポート】 学内外からのボランティア情報・講演会やイベントの発信、ボランティア活動企画、ボランティア活動に関する相談、学生ボランティアサークルへのアドバイス等

【注力する5つの分野】

- ① 災害ボランティア
- ② 国際協力ボランティア
- ③ 教育ボランティア
- ④ 福祉ボランティア
- ⑤ 環境ボランティア



<ボランティアセンターからメッセージ>

ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽に訪ねてきてくださいね。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！

ボランティアって、なんだろう？

高齢者や障がい者、困っている人の手助け？善意あるお手伝い？どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何かすごいことのように、想像すればするほど、難しそう・・・そう思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？

バスや電車の中で自分の席の前にお年寄りが・・・

『席をゆずろうかな、遠慮されたらどうしよう』とソワソワした経験。

荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・

『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。

“ほっとけない” “あの人の為に何かしたい・・・” そんな、くすぐったいような、もどかしいような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える“ボランティアの種”を大事にして、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

<ボランティア活動の4つの原則>

自発性・自主性 ～「やりたい！」想いと初めの一歩を大切に～

自分の“やりたい！”想いを形にして始める活動であり、他人からの強制や義務で行う活動ではありません。決めるのは自分自身なので、積極的に行動できます。

先駆性・開拓性・創造性 ～アイデアから、より良い地域や社会を創ろう～

今、目の前にある必要なことに、すぐ手を差し伸べ取り組むことができます。今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動です。

無償性・無給性・非営利性 ～お金では買えない目に見えない心の財産～

お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、気づきを得ることができます。個人的な利益や金銭的な報酬を期待する活動ではありません。

(ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償は、有償とはみなしません)

社会性・公益性・連帯性 ～みんなのために、みんなで支え合おう～

一人ひとりの人間を大切に、誰もが生き生きと豊かに暮らせる社会を目指します。社会にある様々な課題を多くの人と協力しあい、共に課題を解決する活動です。

ボランティア活動の心構え

1. 無理せず、背伸びせず、楽しく継続

普段の暮らしや学業に支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2. 最低限のマナーを守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然連絡が途絶えると、活動先は困ります。最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3. 身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に必要以上のアクセサリは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4. 秘密厳守（個人情報）

活動を通して知った個人情報は口外してはいけません。反対に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5. お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割で関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。

ボランティア活動の探し方

ボランティア活動に興味はあるけど、なにから始めてよいかわからない…
そんな時は次の4つの方法でボランティアの情報収集をしてみましょう！

① ボランティア登録

QRコードから「ボランティア登録」を行うと、
学内外のボランティア情報をメール配信します！

(詳細は Moodle から確認できます)

登録料などの費用は一切かかりませんので、
気軽にご登録ください。毎年、約1,000名の学生が
登録している人気のツールです。

※ボラセンのHPからも登録できます。



② SAINS ポータル

SAINS ポータルの<①お知らせ欄>にボランティアの最新情報を
順次掲載しています。ポータル掲載から日時が経過すると、画面の
下の方に移動してしまいますので、こまめにチェックしてくださいね。

(ポータル掲載例)



③ 学内掲示版

学内各所に設置されている掲示版にボランティアに関する案内チラシを掲示しています。現在募集している活動を一目で確認できます。



④ ボランティアセンター窓口

ボランティアを始める前に不安なこと、相談したいことがあれば気軽にボランティアセンターにお越しください。どんな活動ができるか一緒に考えてみましょう。



ボランティア活動保険について

ボランティア活動中や行き帰りのケガや事故、また活動先で他人や器物に損害を与えたときに賠償責任を補償するのが「ボランティア活動保険」です。いざというときの備えとして、安心して活動が出来るよう、事前に参加してください。

※ボランティア保険は、350円～550円の掛け金で、万が一のケガや事故を補償してくれます。

(加入日の翌日から当該年度の3月31日まで有効)

加入申込の手続き▶▶▶ 各市区町村の社会福祉協議会



社会福祉協議会（社協）のご案内

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して生活できる福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



♡ 大学最寄りの社協 ♡

社会福祉法人
福岡市早良区社会福祉協議会
早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1丁目1-1 UMIBE B.L.D.1階
TEL:092-832-7383 FAX:092-832-7382



♡ その他 ♡

社会福祉法人
福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
福岡市市民福祉プラザ(ふくふくプラザ)2階
TEL:092-713-0777 FAX:092-713-0778

社会福祉法人
福岡県社会福祉協議会
〒816-0804
春日市原町3丁目1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ内)
TEL:092-584-3377 FAX:092-584-3369・3381

主なボランティア活動の紹介

①災害ボランティア

私たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないですが、みんなの「点」を集めれば「線」になり、「面」へと広がっていくことを信じて活動しています。まずは、自分でできることを考え、あなたの「点」を残してみませんか？

【平成29年7月九州北部豪雨災害ボランティア】

2017年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で猛烈な雨を継続して降らせたことから、記録的な大雨となり甚大な被害が発生しました。本学も行政や他大学、NPO団体などと連携し、学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。



(被災家屋の樹木植え替え)

子どもの遊び場支援ボランティア（名称：プレーパーク）

九州北部豪雨の発生以降、子どもの遊び場支援を継続して行っている団体「すくすく朝倉の未来隊」主催のプレーパークにて、学生ボランティアとして、子どもたちと自然の中で一緒に遊んだり、活動の見守りを行ったりしています。



プレーパークとは…子どもが「遊び」をつくる遊び場のこと。そこでは自然の素材を使ったり、水を使ったり、木に登ったり、何かを作ったり、のんびりしたり。自分の「やってみたいと思うこと」を表現していく遊び場です。のびのびと思い切り遊べる場所で、子どもたちが生きる力を育むことを支えています。

法学部 法律学科 松尾愛さん

今回初めて、プレーパークのボランティアに参加させていただきました。本当に楽しく充実した時間を過ごすことが出来て、嬉しかったです！県外から進学したこともあり、はじめは朝倉の地元の輪の中に入りづらいかと思っていましたが、沢山の人が温かく受け入れて下さったので、安心して活動することが出来ました。私は、一人の女の子と一緒にいる時間が多かったのですが、その子が「お姉ちゃんになってー！」と言ってくれたことが本当に嬉しかったです。多くの人にオススメしたい活動だなと感じました！

人間科学部 児童教育学科 F.R.さん

災害被害にあった朝倉市をこの目で直接見て、一見ただの工事に見えるものでも四年前の災害の復興作業であると分かりました。実際にチラッと横を見るだけで川の工事をしている場所が多々あって、復興はまだ終わっていないと強く感じました。しかし、そんな中でも強く逞しく生活していらっしゃる朝倉市民の方々を見て凄く元気をもらいました。また、ぜひ参加させていただきたいです。

【東日本大震災ボランティア】

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらしました。現地のニーズは毎年変化しており、その時々合った活動を行ってきました。

〔2019年度実施〕

日本バプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から毎年実施していた活動で、現地の教会が交流されている宮城県石巻市牡鹿半島などで一緒に活動したり、他大学との交流プログラムにも参加しました。



(震災遺構で目にしたもの)



(地元の方々との交流(傾聴ボランティア))



(語り部さんのお話)



(関上中学校慰霊碑)

神学部 神学科 原田仰さん

私はボランティアとは何なのかということ学びました。「関上の記憶」というところでガイドの人がおっしゃったひとこと、「支援って、復興とはいったい何なの？」それは今、ボランティアにかかわる私に突き刺さるものでした。それは復興と共に、思い出を失くしていく、仮設住宅でできた関係を失くしていく人たちの言葉でした。ボランティアを必要としている方が期待することは何なのか。それを真摯に受け止めていく必要性を学びました。

経済学部 経済学科 大森涼矢さん

東日本の方にはあまり行ったことがなく、東北地方に行ったのも今回が初めてでした。今回この活動に参加したのは、震災状況の詳細やその後の復興状況などを全然把握していない、だからこそ自分の目で確かめたいと思ったからです。そして実際に宮城の地に行って、写真や映像、展示物、震災を目の当たりにした方々の話などから分かる震災の悲惨さ、その中でも強く生き続けてきた方々と進められてきた復興事業など、直接自分の足で行き、自分の目で見たからこそ得られた経験と情報がありました。参加できてよかったです。

大学間連携災害ボランティアネットワーク（事務局：東北学院大学）

2011年9月から、毎年実施している活動。全国141の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動します。「夏季集中ボランティア2019」では、気仙沼・亘理郡山元町・石巻市牡鹿半島の3つのプロジェクトのうち、山元町での活動に参加しました。活動内容は多岐にわたり、毎年異なります。

法学部 法律学科 織田尚子さん

勉強、バイト、部活、サークル、遊びという夏休みを過ごすのも悪くないかと、入学当初は思っていました。夏休み直前になり、大学生だからできることは他にないか、自分の為だけに過ごす夏休みで終わっていいのかと自問自答し、気にかけていたボランティア活動の話聞きに行きました。ほんの少しの興味から、東日本大震災のボランティアに参加することになり、東北の復興に関わる中自分の目で見て、現地の方のお話を聞いて、大変貴重な体験ができました。少しでも興味があれば、大学生活の中での素晴らしい体験の1つを、ボランティアをとおして作って欲しいです。



【熊本地震ボランティア】

2016年4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5の地震が発生し最大震度7を観測。さらに、4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生し、この地震でも最大震度7が観測されました。本学からも熊本に学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行いました。

【2019年度実施】

九州キリスト災害支援センターのご協力のもと、益城町の仮設住宅で活動。熊本地震の現状を学び、仮設住宅の方々との傾聴交流や学習支援ボランティアを行いました。



（仮設住宅の子どもたちとカード遊び）



（仮設住宅の方々とフォトフレーム作り）

【その他の被災地支援ボランティア・イベント】

大学生災害ボランティアオンライン講座(全11回:2020年度から継続実施)

令和2年7月豪雨災害において、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生の組織的な支援活動が困難な状況でした。そこで、近年の災害を振り返り、各回災害支援に精通した講師の方をお招きし、今後大学生としてどのような支援活動が実施できるかを検討するための研修会を毎月オンラインで開催しました。

人間科学部 心理学科 木村公亮さん

私は、SAINSポータルでこの企画を見て、何を学ぶのか興味が湧き、参加しました。この企画に参加して、同じ災害でも置かれた立場、被災地域によって、それぞれに被害状況が違っていると改めて気付かされました。最後に、コロナ禍により憂鬱な気分になり西南生としてのモチベーションを失いかけていましたが、ボラセンスタッフの励まし、外部の魅力的な人との出会いもあり、少しずつモチベーションが湧きました。特にコロナ禍で気分が鬱屈としている人こそボラセンの講座を受講して欲しいです。

国際文化学部 国際文化学科 鈴木希実さん

災害ボランティアについての知識を身に付けたいと思い講座に参加しました。ボランティアの第一線で活躍されている講師の方のお話を聞き、ボランティア活動の現状、ボランティア運営への支援の重要性や、災害時に利用できる法律と制度などを学びました。グループ討議では同じボランティアに関心がある大学生と意見を交わし、とても刺激を受けました。講座に参加したことで自分の中にあつた「ボランティアは現地でしかできない」という固定観念が消え、まず募金や物的支援など、身近なボランティアから始めていきたいと考えるようになりました。

被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！プロジェクト

2011年冬から毎年、手書きのメッセージやイラストを添えて被災地の方々へクリスマスカードを贈っています。今年も「被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう!プロジェクト」に参加し、全国の被災地にたくさんの“温かい気持ち”を届けることができました。



アカリトライブ

アカリトライブとは…

音楽を通して震災復興に携わっている GAKU-MC さんが2011年から続けている活動で、キャンドルを灯し、東日本大震災等の被災地支援のために何ができるかを考え、各地からのメッセージを被災地に届けるプロジェクト。

本学では2011年から10年間で延べ641名が東北での被災地支援に取り組んできました。東日本大震災の発生から10年が経過した今、あらためて一人ひとりができる復興支援を考える機会、また、全国で初の試みとなる大学とのコラボとして、10月29日、大学チャペルにて開催しました。

第一部では、東日本大震災ボランティアの活動経験がある学生・卒業生と GAKU-MC さんによるトークセッションが行われ、それぞれの活動内容について、現地での実体験を交えて語りました。登壇者から参加者に向けて、「支援とは何か」について考えてほしいといった投げかけや「起こした行動に無意味なものはない」などのメッセージが伝えられ、GAKU-MC さんは、復興支援の第一歩として「自分の周りから少しずつ関わりをもつことから始めてほしい。まずは、隣にいる人やそばにいる人とのつながりを大切にすることだと思う」と語りました。

第二部では、音楽ライブが行われ、会場は一体感に包まれながら復興支援を考える時間となり、参加者は被災地に思いを馳せ、キャンドルに「頑張れ」に代わる応援メッセージを残しました。

被災地の生の声を聞くことで、当時の状況を肌で感じることに繋がると分かった。小さなことでも一つ一つ防災に心がけたいと思った。今までボランティアなど大きなことをすることで支援に繋がると思っていたが、小さなことでも被災地の方に思いをよせて、自分事として考えることも大切だと思った。

自分の命だけでなく、大切な人の命を守れるような人になりたい。音楽の力はやっぱりすごいなと素直に感動した。

10年という節目に大切なことを改めて大切と感じました。当たり前で生きていることに感謝してこれからの日々を過ごしていきたいです。



②国際協力ボランティア

【海外ボランティア・ワークキャンプ】

2003年からフィリピンの貧困地域でボランティア・ワークキャンプを実施しています。貧困と闘いながらも懸命に生きる現地の方々や支援団体との交流を通して、一人ひとりが社会的な課題を自分事として捉えて、行動を起こすきっかけになっています。

〔2019年度実施〕

1. 活動期間：2月～3月の11日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク、役所への表敬訪問、子どもたちへの衛生教育
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15名



国際文化学部 国際文化学科 辻千里さん

最初は不安でいっぱいだったフィリピンでの11日間も、気がつけばあっという間に最終日、まだ帰りたくない！と思うほど充実した毎日でした。活動する場所や内容によって、感じることも、考えることは様々でしたが、特に印象に残っていることは現地の方々の笑顔です。毎日が小さな幸せで溢れていること、人との繋がりの大切さに改めて気づかされました。11日間という短い期間でしたが、この先の自分にもずっと繋がる11日間になっています。勇気を出して飛び込んでみて、本当によかったです！

文学部 外国語学科 英語専攻 瀬戸口未来さん

蛇口からきれいな水が出てくること、温かい水でお風呂に入れること、このような当たり前が少し離れたところでは非日常であることを目で見えて体験したことで、今いる環境のありがたさを痛感しました。そして、お金＝幸せとは限らないこと。これはフィリピンの人たちと接するたびに感じました。現地の方はコミュニケーションを大切にし、毎日毎日心から笑っていました。ある程度のお金は必要ですが、それ以上に「毎日を楽しむこと」の大切さを学びました。この体験を思い出しながら、周りの人を大切に、そして1日を大切に過ごしたいと思います。

【海外ボランティア支援(外部団体主催プログラム)】

【2019年度実施】

海外ボランティアに参加する学生に補助金を支給しており(P17参照)、2019年度の対象プログラムでは、カンボジア、インドネシア、ネパール、中国、フィリピンなどで、学生たちが活動しました。

①Think&Act グループワークキャンプ

活動国:ネパール

主催団体:NPO法人NICE

活動期間:2019年9月2日~9月15日

内容:小学校での英語の授業や施設整備、ゲームなどを通じた異文化交流



文学部 外国語学科 英語専攻 江口花凜さん

「実際に行って、自身の目で見る」ことの大切さを、ネパールへ行った際に実感しました。現地の方々は、日本の様に便利な機械が無い中、シャベルやカマのみを使用し、山の上にある病院まで水路を繋げていました。環境が整っていない場所だからこそ、この活動に対する現地の方の熱い想いに、より胸を打たれました。非日常な経験が出来ることも、海外ボランティアの魅力です。是非、参加して欲しいです!

②FIWC フィリピンワークキャンプ

活動国:フィリピン

主催団体:FIWC九州

活動期間:2019年8月12日~8月31日

内容:昨年作製した水道設備の事後調査、次の春にワークを行う村の下見



国際文化学部 国際文化学科 田中凜花さん

私は海外ボランティアを通して、様々な考えを持つことができるようになりました。大きく自分の考えが変わった点は、ボランティアが現地の人々に与える影響です。国際支援のあり方について深く考える機会となりました。旅行でも留学でもなく、ボランティアで行くからこそ、気がつき、考えることが多くありました。夏に調査企画して、今度の春に実施します。今度の春のボランティアでは、村人にとっても自分にとってもさらに良いものになるように、最大限に努力したいです。

③カンボジアスタディツアー

活動国:カンボジア

主催団体:ボランティアプラットフォーム

活動期間:2019年8月30日~9月5日

内容:村の小学校で日本語・英語教育



法学部 国際関係法学科 石橋穂乃さん

私はカンボジアで英語と日本語を小学生に教えました。その中で1番大切だと思ったことは、五感で感じることです。私は発展途上国に興味があり、本や資料のみで調べたりしていましたが、実際に行き、五感をフル活用したからこそ分かったことが多くありました。また、勇気を出すことで、たくさんの素晴らしい人や物との出会いが待っていることを、ボランティアに参加して感じました。

【NGO合同説明会in西南学院大学】

西南学院百年館〔松緑館〕にて、特定非営利活動法人NGO福岡ネットワーク(FUNN)と本学ボランティアセンター共催による『NGO合同説明会』を開催しました。9回目の開催となる今回は、8つのNGO団体が出展し、学生・教職員約30名が参加しました。参加した学生たちは、興味のある団体のブースで、担当者から直接話を聞いたり、写真や動画で活動の様子を見て質問するなど、学生と団体がつながる有意義な時間となりました。

《2021年度参加団体》(敬称略、順不同)

- ・ NPO 法人トウマンハティふくおか
- ・ 認定 NPO 法人地球市民の会
- ・ 特定非営利活動法人 ISAPH
- ・ フレンズ国際ワークキャンプ九州 (FIWC 九州)
- ・ 特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会
- ・ NPO 法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター)
- ・ 一般社団法人ボランティアプラットフォーム
- ・ 特定非営利活動法人 NGO 福岡ネットワーク (FUNN)

国際文化学部 国際文化学科 松田幸子さん

「国際貢献をしたい」「人の役に立ちたい」そう漠然と将来を考えている人にオススメです。今回の説明会では東南アジアを中心に活動している団体が比較的多かったものの、それぞれの問題意識やアプローチの仕方は異なり、多種多様であり、それらの活動について詳しく聞くことができました。これにより私は自分のしたいことの輪郭をはっきりさせることに繋がりました。また、福岡近郊での多くのNGOの活動を知り、国内・海外協力を身近に感じられ、コロナ禍でも福岡からでも何かできることを模索する手がかりになると思います！



国際文化学部 国際文化学科 U.M.さん

私は、国際系の学部にて在籍しており、どんな形でもいいから外国の人と関わってみたいと思っていました。そのとき、トウマンハティふくおか様の多文化共生ワークショップの説明を受け、グローバル化が進む中、異なる国籍の人々と接する機会が多くなるだろうと考え、コミュニケーションのとり方などを改めて学びたいと感じ、ワークショップに参加しました。実際にインドネシア人の方々と自己紹介やカードゲームを通して仲良くなることができました。異文化理解は、心を開くことではじめてできることだと学びました。

《 海外ボランティア活動に対する補助金について 》

西南学院大学のグローバル化を進めるための一つの方策として、海外での活動を促進するため、海外ボランティアに参加する学生に補助金を支給しています。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で海外への渡航が困難であったため、「NGO合同説明会in西南学院大学」(PI6参照)に参加した団体が説明会にて紹介したオンライン講座やボランティア活動を対象プログラムとしました。

【アメリカ・ベイラー大学との交流】

【2021年度実施】

平和について考えるプロジェクト

本学と国際交流協定を締結しているアメリカのベイラー大学の授業で、アメリカ人学生と協働して戦争体験者へのインタビューを行うボランティアに6名が参加し、平和について考える貴重な機会となりました。



国際交流ボランティア募集

ベイラー大学の授業(平和について考える)でアメリカ人学生と協働して戦争体験者へのインタビュープロジェクトを行うボランティアです。

<主な内容>

- 1.映画鑑賞(「火垂るの墓」、「日本のいちばん長い日」)
- 2.戦争体験者へのインタビュー内容の検討(翻訳含む)
- 3.ベイラー大学の学生とオンラインミーティング
- 4.戦争体験者へのインタビュー(録画)
- 5.インタビュービデオの制作(編集)

<活動期間>

2022年2月~4月末頃(目途)

<申込条件(すべて必須)>

- ・身近な親戚や知り合いに戦争体験者がいること

【2018年度実施】

交流ボランティア

本学からは10名、ベイラー大学からは11名の学生・教職員が共に活動しました。日本とアメリカの大学生と一緒にボランティア活動することで、文化の違いやさまざまな社会問題について考えるよいきっかけとなりました。



(空港でのお見送り)

商学部 商学科 喜久田祥子さん

私は、2019年の3月14日~3月16日に、ベイラー大学とのミッショントリップに参加しました。活動内容としては、子ども食堂での手伝いや子供達との交流、久山療育園でのウォークラリーなどでした。とても充実した時間をベイラー大学の学生達と過ごすことが出来、別れが惜しかったです。この3日間での出来事、経験は今の自信にも繋がっています。皆さんも是非ボランティアに参加してみてください！

③教育ボランティア

【学生サポーター】

各市区町村の教育委員会と連携し、各学校の要望に応じて活動するプログラムで、活動する学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、活動先の各学校において主に、授業や学校行事、クラブ活動の支援をしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。

※詳細はポータルや説明会で確認してください。4月下旬～5月上旬に説明会を開催する予定です。年間を通して相談に応じています。



(休み時間の見守り)



(海外からの子への支援)

人間科学部 児童教育学科 村上由璃華さん（小学校で活動）

児童や先生と直接話をしたり、授業に参加したりすることができ講義だけでは味わうことができない、現場の空気を感じることができました。教員を目指しているということもあり、実際に小学校に行って授業のサポートや、休み時間の児童との触れ合いができるのはとても良い経験になりました。また学生は、児童にとって年齢的に近い存在であり気兼ねなく遊ぶことができたり、学校生活で疑問に思ったことを先生方に質問したりすることがしやすい立場でもあったので、学びのある有意義な活動になりました。

人間科学部 児童教育学科 宮崎万智さん（小学校で活動）

この活動の良さは、学校のありのままを見ることができる点だと思います。その日の行事や子どもたちの様子に合った対応をする先生方の様子を間近で見られることは、教師を目指す私にとってはとても有意義な時間です。初めて現場に出るときは緊張しますが、先生を見ながら子どもたちと一緒に学ぶ時間はあっという間に過ぎていきます。大学での座学に加えて現場を見ておくと今の学びがもっと深くなりますし、教育実習や教員採用試験前に不安を減らしてくれたのは現場での経験かなと思います。

国際文化学部 国際文化学科 平田悠晟さん（中学校で活動）

自分は活動にて主に特別支援学級にいる生徒の授業サポートをしていました。特別支援学級に行くとき毎回生徒たちが、自分が来る事を物凄く楽しみにしてくれていて、そうした生徒の様子を見聞きすると非常に嬉しく感じます。そして自分はこの活動から生徒の様々なニーズに合わせた授業づくりについて学ぶことが出来たと思います。様々な授業の中で生徒各々が持つ特性を理解したうえで、その生徒に最適な支援を行う先生方を見て、このような先生方の姿勢を自分も会得したいと感じると共に、自分の授業づくりにも生かしていきたいです。

【野芥校区学習支援ボランティア】

野芥公民館にて、毎月、小学生を対象とした子ども食堂「つくって食べよう土曜昼！」が実施されています。そこでは、学生が調理・学習支援ボランティアとして参加し、子どもたちと一緒に昼食を作って食べたり、食後に開催される学習会で宿題や勉強を教えたりしながら楽しく活動しています。2021度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、学習支援ボランティアのみに参加しました。

野芥校区社会福祉協議会主催
学習支援ボランティア募集
「つくって食べよう土曜昼！」の学習支援ボランティア
小学生を対象とした【野芥校区】学習支援ボランティア募集のご案内です。
子ども達と楽しい時間を過ごしませんか？
みなさんのご参加をお待ちしております。
※新型コロナウイルス感染症防止の観点から、授業の履修に直接関係する活動は追加とし、学習支援のみがボランティアとなります。予めご了承ください。

日時：2021年10月16日（土）
12:15集合 14:30解散予定
内容：「つくって食べよう土曜昼！」内において学習支援
※食事なし※

スケジュール
小学生が参加する5つのグループに分かれて食事後、学習支援活動します。
12:15 野芥公民館集合・説明
Aグループへの学習支援
13:15 Aグループ解散
Bグループへの学習支援
14:15 Bグループ解散
14:30 ボランティア解散予定

場 所：野芥公民館（早良区野芥丁目23-20）
持参物：マスク、室内シューズ、飲み物など

経済学部 経済学科 小柳美空さん

小学生の子たちと一緒に勉強したり遊んだりすることができて、とても癒される時間でした。また、勇気を出して、自分から積極的に子どもたちの輪に入っていくと、みんな外部から来た私をすんなり受け入れてくれて、楽しい時間を過ごすことができました。今の小学生の子たちがどんなことに興味があるのかやどんな勉強をしているのかを知ることができたのも良かったです。今後も主体的に考えて動いてみることで、いろんな経験を培っていきたいです。



文学部 英文学科 T.H.さん

今回の「つくって食べよう土曜昼！」では、子供たちはもちろんのこと、ボランティアとして参加されていた高齢者の方々も生き生きされていました。少子高齢社会でどちらか一方に焦点が向けられがちなか、このような子供たちと高齢者の方々が交流できる場があるのは、両者どちらにとっても望ましいことだと感じました。そのような場をサポートできたことをとても嬉しく思います。今後も機会があれば、是非参加したいと考えております。

④ 福祉ボランティア

【「ゼロからはじめる」障がい者支援講座（全5回実施）】

特定非営利活動法人障がい者相互支援センターMCPから講師をお招きし、前期2回・後期3回、全5回の「ゼロからはじめる」障がい者支援講座を開催しました。講座では、障がいとは何か？という基礎知識から簡単な手話での自己紹介、ノートテイク、音声認識アプリなどの聴覚障がい者へのサポートについて学び、延べ133名の学生・教職員が参加しました。

《前期：オンライン実施》

【第1回】障がいについて知ろう ～聴覚障がいを中心に～

障がいとは何か / 聞こえない体験 / 大学生活における障がい学生の実態 / 私たちができることは何か

【第2回】はじめての手話

手話の基礎 / あいさつ / 自己紹介(名前の表現、指文字) / 数字を表現しよう



《後期：対面実施》

【第1回】はじめての手話

手話の基礎 / 自己紹介(誕生日の表現、大学や学部の紹介)

【第2回】ノートテイク体験

筆談をしてみよう / ノートテイクって何？ / テイク体験

【第3回】音声認識アプリ(UDトーク)

音声認識アプリを使って文字で会話をしよう / UDトークでの支援方法を知ろう

2021年度
**「ゼロからはじめる」
障がい者支援講座** 受講料無料

～誰でもできる！聞こえない人へのサポート～ 1回のみ
参加も大歓迎！

前期2回・後期3回(全5回)の講座を開催します。
障がい支援＝難しいと思わず、楽しく学んでみましょう！

【日時・講座内容】 各回いずれも
15時30分～17時00分(90分)

【前期】

第1回 7/14(水) 障がいについて知ろう ～聴覚障がいを中心に～
障がいとは何か / 聞こえない体験 / 大学生活における障がい学生の実態 / 私たちができることは何か

第2回 7/21(水) はじめての手話
手話の基礎 / あいさつ / 自己紹介(名前の表現、指文字) / 数字を表現しよう

【後期】

第1回 11/10(水) はじめての手話
手話の基礎 / 自己紹介(誕生日の表現、大学や学部の紹介)

第2回 11/17(水) ノートテイク体験
筆談をしてみよう / ノートテイクって何？ / テイク体験

第3回 11/24(水) UDトーク
音声認識アプリを使って文字で会話をしよう / UDトークでの支援方法を知ろう

音声認識アプリとは・・・

UDトークなどの音声認識アプリは、話した言葉をテキストに変換することができ、聴覚障がいの方もリアルタイムで話の内容を理解することができます。また、使い方次第で幅広く様々な方とのコミュニケーションに活用することもできます。



人間科学部 社会福祉学科 木原真子さん

障がい者にとって何が必要な支援であるのかを考えさせられました。今回、手話に興味があり、講座に参加しました。聴覚障がい者は手話だけでなく、筆談、ジェスチャーなどでも伝えられることを知りました。そして、その情報保障は、聴覚障がい者に限定するものではなく、今回初めて知ったUDトークで、海外の人とも会話出来るといったような、全ての人のためにもなるということを知ることができて良かったです。



国際文化学部 国際文化学科 O.Y.さん

駅で目の不自由な人が困っていた時に声をかけたものの、何もできず急いでいたこともあり、最後までサポートできなかったことを後悔していました。今回は聴覚障がい者のための講座でしたが、障がいの特性について知り、私が何をできるか考えたいと思い、この講座に参加しました。参加する前までは、口元を見せてははっきり話せば伝わるかなと思っていましたが、手話や筆談などさまざまなコミュニケーションを使うことが必要と知り、やはりまずは障がいの特性について知ることが障がい者のサポートをする上で重要だと実感しました。

【受刑者の方々へクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】

NPO 法人マザーハウス*では、毎年、受刑者の方々へバースデーカードやクリスマスカードを送られています。そこで、本学からも受刑者の方々へクリスマスカードでこころ温まるメッセージを贈りました。

*NPO 法人マザーハウスとは…受刑者・元受刑者の社会復帰支援を行う団体



【久山療育園との交流ボランティア】

西南学院と同じ日本バプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障がい者を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に收容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティアやスタディツアー、チャリティイベントなどを開催しています。

〔2019年度実施〕

開園祭ボランティア

学生・職員43名がボランティアとして参加し、利用者の方々の介助補助や商品バザー、食堂バザー、駐車場誘導に分かれて活動しました。



文学部 外国語学科 フランス語専攻 永嶋玲奈さん

私は今回で2回目となるボランティア活動への参加でした。担当した場所は、久山療育園利用者の方との触れ合いコーナーです。利用者の方だけでなく、ご家族のみなさんやスタッフの方など多くの方との触れ合いを通して、人の役に立つことの喜びや大切さを学ぶことができました。利用者の方達の笑顔を見ることができ私自身も嬉しくなり、とてもいい経験になりました。

〔2021年度実施〕

学生スタッフOPENとの交流

新型コロナウイルスの影響により対面での交流が難しいため、オンラインで交流会を実施。学生スタッフOPENが利用者の方へ想いを込めてクリスマスポスターを作製し、施設に贈りました。



人間科学部 心理学科 I.M.さん

久山療育園の方々と、約2年ぶりに交流させていただきました。コロナ禍のためオンラインでの交流でしたが、利用者の方とお互いに自己紹介したり、近況を報告し合うなど、久山療育園の職員さんにサポートしていただきながら、楽しく交流することができました。利用者さんが私たちと交流するために自己紹介等を練習してきてくれたということを知り、とても嬉しく思いました。オンラインで表情や場の雰囲気も見えづらい状況でしたが、その分ゆっくり大きな声でお話するなどの配慮の大切さも実感しました。次は対面でお会いしたいです。

⑤環境ボランティア

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこっとボランティア(通称:ちょこボラ)」をご紹介します。

(1) お弁当容器のリサイクル(→災害支援へ)

お弁当容器を回収ボックスに入れて、被災地に災害支援金を届けよう!
お弁当容器(リリパック)回収による払戻金が被災地へ送る災害支援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い(もしくは黒い)フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ!割れても大丈夫です。
弁当容器1個が10円の災害支援金として募金されます。
※生協、クロスプラザで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

[1号館] 2・3階エレベーターホール
[2号館] 学生ホール、2階廊下
西南会館ラウンジ、生協食堂1階、
図書館1階ライブラリーカフェ、
学術研究所1階ロビー、
コミュニケーションプラザ1階



(2) 寄付本★プロジェクト(→奨学基金へ)

自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学基金へつなげよう!
不要となった古本などを寄付し、本学の奨学基金へつなげるプロジェクトです!
業者の回収は、原則、第1火曜日です。

【対象となるもの】

専門書~趣味の本までOK、書込みされた本もOK、CD・DVD・ゲームソフト

【対象とならないもの】

(書籍) 百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ
(CD/DVD) ケースがない・サンプル・規格品番なし



【回収ボックス設置場所】

1号館2階入口、2号館1階学生ホール、学術研究所、
コミュニケーションプラザ各階ロビー、法科大学院事務室内



(3) 学用品のリユース (→カンボジアの教育支援へ)

SIEC (西南国際教育協力隊) の取り組みについて

カンボジア支援プロジェクトでは、毎年3月と11月の年2回カンボジアに渡航して教育支援を行っています(P34参照)。その活動において、日本で集めた寄付物を、渡航した際、イベントの参加賞として子どもたちに手渡ししています。

【集めているもの】

文房具、赤白帽子、子ども用夏服、ノート、サッカーボール、ランドセル、楽器、電池を使わないおもちゃ、文字がない絵本 など

【回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前、西南会館、5号館心理学実験室前



(4) 書き損じハガキ・古切手回収 (→途上国・福祉活動支援へ)

書き損じハガキ、使用済み切手などを
発展途上国や福祉の支援活動に役立てよう！

①書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントして
しまったものなどを回収ボックスへ！

②古切手(使用済み切手)

封筒やハガキに貼ってある切手を、
台紙ごと消印と切手を切らないように
周りを切り取り、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前



学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボランティア登録からはじめてみましょう。(P6参照)



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります！
活動を始めるヒントにしてくださいね♪

活動分野	内 容
子ども・青少年	乳幼児施設・子ども食堂での活動、子どもキャンプ(野外活動)、遊びの見守り、チャリティサンタ、居場所づくりなど
高齢者	福祉施設でのお手伝い、お話し相手(傾聴)、レクリエーション補助など
障がい者	施設訪問、ノートテイク、手話、点訳・音訳、レクリエーション補助など
国際協力・交流	ワークキャンプ、スタディツアー、留学生支援、日本にいる外国人への支援、翻訳、国際交流イベントのお手伝いなど
環境	海浜美化活動、街や公園の清掃活動、リサイクル活動、エコイベント企画・実施、農業支援、植樹など
教育	学生サポーター、公民館・児童館・フリースクールでの学習支援など
芸術・文化	伝統文化の継承・普及活動、美術館や博物館での活動など
災害・防災	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、物資仕分け、募金活動、傾聴交流、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練への参加など
地域・まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、イベント企画・運営、交通安全・防犯活動、町並み保存活動など
人権	路上生活者への支援、受刑者・元受刑者への支援、難民支援など
スポーツ	スポーツ大会、イベントの受付・運営補助、スポーツ教室での指導など

学内ボランティア

<入試課>



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約7,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、受付案内、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、クラブ活動紹介などがあります。2日間で延べ約200名もの学生が活動しています。

場所：中央キャンパス3号館2階

TEL：092-823-3366

Mail：nyuushi@seinan-gu.ac.jp

<国際センター>



留学生サポートボランティア

世界30ヶ国以上から来る留学生をサポートする学生ボランティアを募集しています。留学生バディや日本語学習チューター、日本語会話パートナーなどの活動があります。

場所：中央キャンパス
3号館1階

TEL：092-823-3346

Mail：intleduc@seinan-gu.ac.jp



<広報・校友課>



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生のみなさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス本館2階

TEL：092-823-3248

Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

<大学博物館>



博物館ワークショップボランティア

博物館でワークショップを行う際に、ボランティアを募集しています。

詳細は、日程等が決まり次第、ボランティア登録メールや、博物館ホームページ等でお知らせいたします。

場所：大学博物館、学内等

TEL：092-823-4785

Mail：museum@seinan-gu.ac.jp

<聖書植物園>



大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園の維持に必要な草取り等の活動を行っています。

活動日：毎月 第3土曜日 9:00～12:00

持ち物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9:00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加 O.K です!）

問合せ先：総務課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316

<西南子どもプラザ>



本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、学部、経験は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対象：本学学生

活動時間：9:00～17:00 の都合の良い時間
（日曜除く）

場所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ・おもちゃの制作や消毒・行事の手伝い・外国人親子との会話の手助け等

申込方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207

新型コロナウイルス感染症対応のため、活動内容等変更することがあります。ご希望の方はお問い合わせください。

各ボランティア参加者からの一言メッセージ

ボランティアに参加して凄く成長できたので、ぜひ参加してみてください！

プレーパークの方々はとても優しく、初めて来た学生も快く受け入れて活動をしてくださいました。参加したらきっと視野が広がると思います。

感謝の気持ち

大学生と接する時とは違った経験をすることができます。

活動そのものを楽しんで行くと、自分も満足して活動できます。

共生

思いやり

学科の座学では学べないことが多いと思うので有意義な機会にしてください！

迷ったら参加するべきです。ぜひ新しいことにチャレンジしてみてください。

学生同士の交流もできます！

活動に参加して良かったと心から思います。たくさん得られることがあるので、参加して損はないです！

学生サポーターでは大学での講義よりもリアルな経験ができます。大学生という立場で学校に携われるのは貴重だと思いますので、頑張ってください！

初めての経験は必ず自分のためになると思います。

勇気

きずな

今まで関わりのなかった分野が身近に感じられるかもしれません。新しい扉を開いてみませんか。

支え合い

障がいとは他人事ではなく、自分事として捉えると良いと思います。

新しいことも怖がらずにチャレンジしてみてください！！

自分の視野を広げるために色々参加してみるべきだと思う。

学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ボランティアセンターまでお問い合わせください。

(1) 学生スタッフ OPEN

【活動日】 不定期

【活動場所】 1号館の教室もしくはチャペルセンター

【代表者】 加藤涼香（人間科学部 心理学科）

OPENとは…（ボランティアセンターの学生スタッフです^^）

O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を!*

P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に!*

E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い!*

N…Network *人が“つながる”場所を作ります!*

主な活動: 学内外のボランティアへの参加・運営・企画・広報

(例) 被災地支援、福祉施設への訪問や交流会、
ボランティアサークル合同説明会など

こんな人集まれ!!: ボランティアを企画・運営したい人、
ボランティアに興味がある人、ボランティア仲間が欲しい人、
他サークルとの掛け持ちOK!! ぜひ一度、見学にきてみてください!



～学生スタッフOPENの活動～

ボランティアセンターには、学生スタッフ「OPEN」が、さまざまな形で活動しています。学生スタッフ研修や、OPEN企画の説明会やイベントを実施しています。学生スタッフについては、ボラセンへ問い合わせてみてください。

[2021年度実施]

せいなんボランティア・カフェ

ボランティアに興味のある1、2年生を対象として、気軽に参加できる交流会を実施し、OPENの活動紹介やアイスブレイクでの記者会見、フリータイムを通して、アットホームな雰囲気での交流を深めました。

久山療育園との交流

久山療育園の方々へクリスマスポスターを作製し、贈りました。また、オンラインで交流会を実施し、自己紹介をしたり、大学の授業や趣味のお話などをして、楽しい時間を過ごしました。



〔2020年度実施〕

学生スタッフ研修

オンライン交流会（後述）を実施するため、プログラム内容のシミュレーションや役割などについて話し合いを行いました。

24期生対象！オンライン交流会

新型コロナウイルスの感染拡大によって、学内で交流する機会が少ない1年生のため、オンラインでの交流会を実施しました。当日は学生同士の交流だけでなく、ボランティア活動について紹介することもでき、実りある時間となりました。

ゆたかカレッジ福岡キャンパスとのオンライン交流会

毎年、ゆたかカレッジ福岡キャンパスの利用者の方々と交流会を行っていて、2020年度はオンラインでの交流会を実施しました。本学からは10名の学生が参加し、お互いに簡単な自己紹介をしたり、利用者の方からの質問に学生が答えたりと、終始温かな雰囲気の中で交流することができました。

〔2019年度実施〕

学生ボランティア団体合同説明会

OPENの企画運営で開催し、約50名の学生・教職員が参加しました。それぞれのボランティア団体が何を目的に、日々どのような活動を行っているかなどをパワーポイントを用いて説明しました。参加学生にとってボランティアについてより深く知ることのできるよい機会となりました。



学生ボランティアミーティング

福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん主催のグッドアクティビティフェスティバルにて、大学やサークルの垣根を越えて、これからの社会貢献について一緒に考える場として、学生ボランティアミーティングが開催され、OPENのメンバーが参加しました。



(2) ワークキャンプ部

【活動日】毎週水曜日

【活動場所】西南会館5階・ふくふくプラザ

【代表者】小田知幸（法学部 法律学科）

ワークキャンプ部は2大学合同（九州産業大学、西南学院大学）の福祉系ボランティアサークルです。全体で約70人のメンバーが異なる訪問先を持つ5つのグループに分かれて、月2、3回程度それぞれの施設を訪問し、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流しています。たくさんの人との出会い、日常生活では体験できないことがみなさんを待っています！私たちと一緒に大学生生活を楽しみませんか？連絡をお待ちしています！！



◆学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」は、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置づけ、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。2021年度は、2020年度に引き続き、「学生ボランティア活動体験レポート」にて実施され、本学からは、ボランティア団体「ワークキャンプ部」の篠原健吾さんのレポートが採択され、団体に助成金が送られました。



(3) 西南 FIWC 九州

【活動日】不定期

【活動場所】博多びおとーぷ

【代表者】安武みなみ（文学部 外国語学科 英語専攻）

FIWC 九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している学生は、九州大学や西南学院大学などです。活動を行っている国は、フィリピン、中国、ネパール、インドネシア、日本の5カ国で、各国によって行っている活動は様々です。春と夏の長期休暇を利用して現地で行います。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を自ら企画・運営できるのが、学生だけで運営をしているFIWC九州の特徴です。現在は新型コロナウイルスの影響で渡航は難しいのですが、福岡県田川郡福智町での地域創生キャンプや大分県中津市耶馬溪での農業キャンプなど国内での活動を軸としてまた海外へ渡航できる日に向けて準備をしています。少しでも気になった方は是非ご連絡ください。



(4) Think&Act

【活動日】毎週木曜日

【活動場所】代表者にお問い合わせください

【代表者】吉村純一（経済学部 経済学科）、小柳美空（経済学部 経済学科）

Think&Act は国際協力、国際交流、国内ボランティアなどを行う学生団体です。国際協力としては、例年夏季休暇を利用し、海外ワークキャンプに参加しています。4年前はモンゴル、3年前はインドネシアとネパールへ行きました。国際交流では例年だと西南学院に来ている留学生との交流を行っており、実際に、毎週木曜日は一緒に活動をしていました。そして、国内ボランティアでは東北の被災地への支援や福岡市海浜公園主催のボランティア、西南学院子どもプラザのイベント支援など様々な活動に参加しています。毎週の活動では、例年クリスマスパーティなどの季節に合わせた活動をしており、今年はコロナで集まれなかったため、Zoomで様々な企画をして仲を深めました。雰囲気としては、すごくアットホームなサークルです！気になる方は、気軽にご連絡ください！



(5) SIEC (西南国際教育協力隊)

【活動日】毎週木曜日

【活動場所】教育・研究推進課

【代表者】中秋龍哉 (人間科学部 児童教育学科)

私たちSIEC(西南国際教育協力隊)は、他大学と共同で「すべての子どもたちに行き届いた教育を届けるプロジェクト」として、毎年3月と11月の年2回、カンボジアとラオス(ラオスは3月のみ)に渡航し、教育支援を行っています。具体的には、運動会の開催や理科・体育・音楽・図画工作などの授業、児童養護施設訪問を行っています。しかし昨年は新型コロナウイルスの感染拡大によって、渡航を断念する形となってしまい、非常に悔しい結果となりました。現在は、現地への渡航が難しい状況であるため、国内での活動が主になっています。

国内では、学内や近隣の小・中学校、自分たちの母校に寄付物(赤白帽子、ノート、筆記用具、楽器など)を募っています。この寄付物は、現地の子どもたちに一人ずつ手渡しています。また、定期的に他大学と会議を行い、渡航に備えて運動会や提案授業の内容を考えたり、現地で使うものを作ったりしています。さらに、大学祭では、現地で購入したカンボジアコーヒーの販売、教室企画で活動内容のポスター提示など、私たちの活動を紹介しています。各々が他のボランティア活動に参加したい時には、情報共有を行い支援とは何かを考えながら日々活動しています。



(6) のびっこの会

【活動日】第2・第4土曜日の午後

【活動場所】5号館

【代表者】田中美羽 (人間科学部 児童教育学科)

【連絡先】nobikko.no.kai@gmail.com

のびっこの会は、軽度の障害をもった子どもたちやその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡—中央よりシグマソサエティとして承認されました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しており、現在は約20名の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行っています。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

2020年からは、対面の活動に加えオンライン(Zoom)での活動も併用しながら、子どもたちとの交流を深めています。活動を通して様々な経験を得られるだけでなく、子どもたちから多くの笑顔とパワーをもらい、楽しい思い出をつくるができます。興味がある人はぜひ連絡してみてください！お待ちしております！！



NOBIKKO.SEINAN

(7) Pao

【活動日】毎月(8月、1月を除く)第2または第3土曜日(子どもたちとの交流活動)、毎月5回程度の話し合い、準備

【活動場所】5号館106教室、オンライン(子どもたちとの交流活動)、児童発達支援センターゆうゆうセンター等



私たちPaoは主に発達障がいがある子どもたちと交流する学生主体のボランティアサークルです。月に一度の子どもたちとの交流活動では“子どもたちの居場所づくり”をモットーに、運動会、クリスマス会などの季節に合わせた活動や、室内・屋外遊び、お出かけ、大学祭めぐりや工作、クッキングといった様々な活動を行っています(8月と1月を除く)。また、児童発達支援センターゆうゆうセンターの方にアドバイスをもらいながら、Paoに参加する子どもたち一人ひとりの特性を考慮し、子どもたちが楽しめることはもちろん、心に残る思い出や成功体験の機会をつくり、子どもたちの自信に繋がられるような居場所づくりを目標に活動を考えています。ほかにも、月に2回の学習会(ゆうゆうセンターの方によるワークショップ形式のセミナーなど)を開き、障がいについての知識を得たり、学生間で意見交換を行ったりして、日々の活動に活かしています。

2021年度は新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの活動がメインでした。例年通りの対面での活動は行えませんでした。オンラインでも子どもたちが楽しいと思ってくれるような活動を考え、行いました。

Paoの最大の魅力は、学生主体であり、学年の壁がないため誰でも気軽に子どもたちと一緒にしてみたいことを企画し、挑戦できることです!その活動で子どもたちと一緒に楽しく遊び、子どもたちの笑顔に触れて、元気をもらえます。興味がある方はぜひ一度活動に参加してみてください!体験も大歓迎です!連絡をお待ちしています!



(8) 手話サークルとびうめ

【活動日】毎週水曜日 4時限目 【活動場所】チャペルセンター、Zoom

【代表者】宮島萌恵(人間科学部 社会福祉学科)

【連絡先】seinan.tobiume@gmail.com

私たちは、毎週水曜4限の時間にチャペルセンターに集まり、指導者の方のもと手話ろうあ者の生活・文化などを学んでいます。難しいと思われるかもしれませんが、少人数のサークルであるため、アットホームな雰囲気です。また手話検定にも積極的にチャレンジしています。今後の状況によっては、他大学の手話サークルさんとの交流や手話カフェに出かけ、当事者の方と交流したいと考えています。手話に興味がある方、参加を考えている方、ご連絡をお待ちしております。



SEINAN.TOBIUME

(9) 学生YM(W)CA

【活動日】毎週水曜日

【活動場所】西新周辺

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設に行って、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関われることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



■印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)について

利用できる団体

学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

◎印刷機(用紙については各自で用意すること)

1. ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
2. 使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
3. 使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

◎紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

■活動室の利用について

利用できる団体

学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

※団体設立に向けて検討中の場合は相談すること

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。





Stand up For Others

SEINAN
GAKUIN UNIVERSITY

西南学院大学 ボランティアガイドブック

発行/西南学院大学ボランティアセンター事務室
(中央キャンパス1号館2階エレベーター横)

電話/092-823-3662

メール/swvoc@seinan-gu.ac.jp

